

		A	B	C	NRA評価案(志賀)	北陸評価(令和5年5月26日面談資料より)
9-1 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係る中期計画 ①目標設定 ②達成基準 ③継続的改善					
9-2 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係る年度計画 ①目標設定 ②達成基準 ③継続的改善	(効果的な向上) 緊急時対応組織の実効性の向上の観点から、年度計画について、以下の項目を全て満足する。 ①適度な難易度で設定された中期計画の目標に基づき、年度の目標が適切に設定されている。 ②年度の目標に対する達成基準が具体的、かつ明確に設定されている。 ③継続的改善に係る仕組みが効果的に機能している。	(限定的な向上) 緊急時対応組織の実効性の向上の観点から、年度計画について、以下の項目が1つ以上ある。 ①容易な難易度で設定された中期計画の目標に基づき、年度の目標が設定されている。 ②年度の目標に対する達成基準の一部が具体的でない、あるいは、不明確である。 ③継続的改善に係る仕組みが十分に機能していない。	(A, B以外) 緊急時対応組織の実効性の維持が目標となっている等。	B(限定的な向上) ①容易な難易度で設定された(年度)訓練目標が設定されている。 <u>中期計画との関連は確認できず。</u> <評価> ①目標設定に係る確認 志賀原子力発電所における、初回の支援組織との連携訓練(外部電源復旧に係る連携)であり、容易な難易度(達成可能であり、各々の社内ルールに基づく活動、平素のトラブル対応と差異のない(それぞれの所掌設備の損壊で、役割分担は明白)マルファンクション・判断分岐なし)で設定されたもので、 <u>適度な難易度とは言い難い。</u> ②達成基準に係る確認 各フェーズに対する期待事項(臨機対応含む)を定め、達成基準も設定している。 ③継続的な改善に係る確認 <u>社外の意見も含め、CAP等で管理することとしている。</u>	評価: B(限定的な向上) 該当した項目: ①目標設定: Bに該当 <説明> ・訓練目標は達成の見込みを想定した内容であり、容易な難易度で設定している。(初年度の試行のため、中期計画なし) ・年度(訓練)の目標を設定している。 ②達成基準: Aに該当 <説明> ・訓練目標に対する達成基準は、評価基準シートにて具体的、かつ明確に設定している。 ③継続的改善: 該当なし <説明> ・今回は初回評価であり、PDCAサイクルの途中であることから、継続的改善に係る仕組みが効果的か否かは未評価である。 ・なお、継続的改善に係る仕組みとして、「訓練プレーヤによる反省会」および「社内・外評価者による評価」により課題を抽出し、CAP等で管理を実施している。
9-3 【P】	緊急時対応組織の実動訓練	(フル実動訓練) 中期計画に基づく当該年度計画で実動とした緊急時対応組織の全てが実動する計画である。	(一部実動訓練) 中期計画に基づく当該年度計画で実動とした緊急時対応組織のうち一部が実動する計画である。	(A, B以外) 緊急時対応組織の実動訓練を実施しない計画など。	B(一部実動訓練) 「実動訓練の参加組織あるいは参加者は、実発災時の活動を想定し、広範囲かつ適切に設定されているか」について、参加組織は、自社(発電部門)、北陸電力送配電株式会社(送電部門)であり、計画通りであった。しかしながら、緊対所の本部は実設されていたが、⑤その他、必要な社内外組織との連携に係る自社の活動」について3名の復旧班要員による活動で、それぞれの所掌部分の損壊に係る復旧が「実発災時の活動を想定」といい難しく、一部の実動訓練である。	評価: B(一部実動訓練) <説明> ・訓練設定は電力系統(外部電源)の一部の復旧であることから、訓練計画にて実動とした緊急時対応組織(北陸電力送配電株)の一部が実動する計画である。 ・なお、緊急時対応組織(北陸電力送配電株)の原子力事業者防災業務計画に定める活動は、「電力系統の運用及び供給対策」である。
9-4 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係るより現実的な実動を伴う訓練設定	(臨機応変な対応能力の向上) より現実的な実動を伴うシナリオや状況設定となっており、緊急時対応組織の活動の全てがシナリオ非提示型訓練となっている。	(型通りの対応能力の維持) より現実的な実動を伴うシナリオや状況設定となっており、緊急時対応組織の活動の全て又は一部がシナリオ提示型訓練となっている。	(A, B以外) 当該年度の目標とは関係ないシナリオが設定されている等。	B(型通りの対応能力の維持) 志賀原子力発電所における初回の連携訓練であったが、それぞれの上位組織の意思決定プロセスも確認でき、臨機な連携を含むものとなっていたが、机上での調整・検討が主体で、復旧等に係る実動は限定的で型通りの対応能力の維持を狙いとした設定。今回参加の緊急時対応組織の活動の全てが、シナリオ非開示の訓練であった。	評価: A(臨機応変な対応能力の向上) <説明> 発電所敷地内において、外部電源(66kV赤住線)のうち発電所及び送電部門(社外組織)それぞれの所掌設備が地震の影響により損壊する。これに対し、発電所及び送電部門が連携して現場確認や復旧計画の立案を行うシナリオ設定としており、全てをシナリオ非提示とした。

		A	B	C	NRA評価案(志賀)	北陸評価(令和5年5月26日面談資料より)
9-5 【D】 【C】	緊急時対応組織の実効性向上に係る支援活動の実施	(すべて実施) 全て、当初の計画通りに活動が実施された。	(概ね実施) 概ね、当初の計画通りに活動が実施された。	(A, B以外) 当初の計画通りに活動が実施されなかった。 ・コントローラの介入などにより、訓練の中断を要する場合等	A(すべて実施) 全て、当初の計画通りに、指揮命令系統に基づき、活動が実施された。 志賀原子力発電所における初回の、支援組織との連携訓練であり、計画通りに実施された。 行動内容については、評価者による記録、ホワイトボード記録、情報共有ツール(作業要領兼報告書等の資料)で記録している。画像録画はなし(写真のみ)	評価: A(すべて実施) <説明> ・全て、当初の計画通りに活動を実施している。 ・発電部門および送電部門が「適切な連携の下、計画通りに活動したこと」について、評価基準シートに行動内容(達成可否、良好事例・気づき事項)の記録が取られている。
11 【C】 【A】	訓練結果の自己評価・分析	(継続的な向上) PDCAを回し、1つ上のレベルに到達し、これを繰り返すことで継続的な向上に繋がっている(スパイラルアップが来ている)。	(現状の維持) PDCAを回しているものの、現在のレベルを維持している。 ・検証・評価ができていない ・計画で設定した目標と比較し、目標に近づいたのか評価していない ・改善点が見つからない ・改善案が適切ではない ・次のサイクルで目標、課題を設定せずにPDCAサイクルを回す等	(A, B以外) PDCAが回っていない。 ・同様の問題が毎年繰り返し確認されている等	A(継続的な向上) or B(現状の維持) ・初年度は、PDCAのAの効果まで確認できず。(翌年度に可能) ・ <u>検証・評価について体制・基準を明示し確実に実施。</u> ・計画で設定した目標の達成度は、難易度の容易な相互の社内ルールに基づく活動であり、目標は達成していた。 <u>ただし、改善点は限定された訓練目標におけるものであり、改善に取り組もうとしているが、対策については、事業者からの対策のみで、連携者との継続した具体化はみられず、課題解決の具体的な対策とは言い難い。</u>	評価: (A) (継続的な向上) <説明> ①訓練結果の自己評価において、【C】適切に検証・評価している。 ②【A】評価を行い、改善すべき事項を抽出している。 ③具体的な対策の方針を検討している。 一方で今回は本評価指標案を用いた初回評価であり、PDCAのサイクルは回っていないため、限定的な評価(A)となると考える。

		A	B	C	NRA評価案（玄海）	事業者間ピアレビュー（令和5年5月26日面談資料より）	九電評価（令和5年5月26日面談資料より）
9-1 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係る中期計画 ①目標設定 ②達成基準 ③継続的改善						
9-2 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係る年度計画 ①目標設定 ②達成基準 ③継続的改善	（効果的な向上） 緊急時対応組織の実効性の向上の観点から、年度計画について、以下の項目を全て満足する。 ①適度な難易度で設定された中期計画の目標に基づき、年度の目標が適切に設定されている。 ②年度の目標に対する達成基準が具体的、かつ明確に設定されている。 ③継続的改善に係る仕組みが効果的に機能している。	（限定的な向上） 緊急時対応組織の実効性の向上の観点から、年度計画について、以下の項目が1つ以上ある。 ①容易な難易度で設定された中期計画の目標に基づき、年度の目標が設定されている。 ②年度の目標に対する達成基準の一部が具体的でない、あるいは、不明確である。 ③継続的改善に係る仕組みが十分に機能していない。	（A、B以外） 緊急時対応組織の実効性の維持が目標となっている等。	B（限定的な向上） ①容易な難易度で設定された中期計画の目標に基づき、年度の目標が設定されている。 <評価> ①目標設定に係る確認 ・玄海発電所における初回の後方支援拠点訓練であり、容易な難易度で設定された。 ②達成基準に係る確認 ・研修所における、規制庁及び自衛隊との連携を達成基準と設定した。 ③継続的改善に係る確認 ・社外の意見も含め、GAPを活用することとしている。	評価：B 該当した項目： A①：年度（今回）の目標を適切に設定 A②：年度（今回）の目標に対する具体的な達成基準を具体的に、かつ明確に設定 B①：年度（今回）の目標を適切に設定 <参照したエビデンス> 訓練前NRA面談（2/13,2/20）資料	評価：B（限定的な向上） 該当した項目： ①目標設定 ：A又はBに該当 <説明> ・2022年度のLSB訓練実施伺いを策定し、年度（今回）の目標を適切に設定（初年度の試行のため、中期計画なし） ②達成基準 ：Aに該当 <説明> ・訓練計画を作成し、年度（今回）の目標に対する具体的な達成基準を具体的に、かつ明確に設定 ③継続的改善 ：該当なし <説明> ・初年度の試行のため、継続的改善に係る仕組みを確認できず
9-3 【P】	緊急時対応組織の実動訓練	（フル実動訓練） 中期計画に基づく当該年度計画で実動とした緊急時対応組織の全てが実動する計画である。	（一部実動訓練） 中期計画に基づく当該年度計画で実動とした緊急時対応組織のうち一部が実動する計画である。	（A、B以外） 緊急時対応組織の実動訓練を実施しない計画など。	B（一部実動訓練） 「実動訓練の参加組織あるいは参加者は、実発災時の活動を想定し、広範囲かつ適切に設定されているか」について、参加組織は、自社、規制庁及び自衛隊であり、計画通りであった。しかしながら、自社の活動は、実発災時の活動を想定した規模※ではなく、一部の实動訓練である。 （計画時に規模感の確認も必要。「②他の原子力事業所（自社の原子力事業所を含む。）との連携に係る自社の活動」について、1名の受入計画は、「実発災時の活動を想定」とは言えないと思慮。）	評価：A 実動とした緊急時対応組織等（陸上自衛隊、原子力規制庁）の全てが実動する計画とした。 <参照したエビデンス> 訓練前NRA面談（2/13,2/20）資料	評価：A（フル実動訓練） <説明> LSB訓練のうち、緊急時対応組織の実効性の向上に係る評価指標の対象として、実動とした緊急時対応組織等（陸上自衛隊、原子力規制庁）の全てが実動する計画とした。
9-4 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係るより現実的な実動を伴う訓練設定	（臨機応変な対応能力の向上） より現実的な実動を伴うシナリオや状況設定となっており、緊急時対応組織の活動の全てがシナリオ非提示型訓練となっている。	（型通りの対応能力の維持） より現実的な実動を伴うシナリオや状況設定となっており、緊急時対応組織の活動の全て又は一部がシナリオ提示型訓練となっている。	（A、B以外） 当該年度の目標とは関係ないシナリオが設定されている等。	B（型通りの対応能力の維持） 玄海発電所における初回の後方支援拠点訓練であり、訓練設定として、一部を非開示とした訓練とし、型通りの対応能力を確認を目的としている。	評価：B オンサイト支援に係る活動として、必要な道路啓開を依頼するまでの調整や活動を行うシナリオ設定としており、調整会議の実施など一部シナリオ非提示とした。 <参照したエビデンス> 訓練前NRA面談（2/13,2/20）資料	評価：B（型通りの対応能力の維持） <説明> オンサイト支援に係る活動として、必要な道路啓開を依頼するまでの調整や活動を行うシナリオ設定としており、発電所への物資輸送に係る調整会議や本部活動の一部をシナリオ非提示とした。
9-5 【D】 【C】	緊急時対応組織の実効性向上に係る支援活動の実施	（すべて実施） 全て、当初の計画通りに活動が実施された。	（概ね実施） 概ね、当初の計画通りに活動が実施された。	（A、B以外） 当初の計画通りに活動が実施されなかった。 ・コントローラの介入などにより、訓練の中断を要する場合等	A（すべて実施） 全て、当初の計画通りに活動が実施された。 玄海発電所における初回の後方支援拠点訓練であり、計画通りに実施された。 行動内容については、評価者による記録、クロノロジー等の資料、ビデオ録画で記録している。	評価：A 全て、当初の計画通りに活動が実施された。 <参照したエビデンス> 訓練後NRA面談（3/27）資料	評価：A（すべて実動） <説明> 全て、当初の計画通りに活動が実施された。

		A	B	C	NRA評価案（玄海）	事業者間ピアレビュー（令和5年5月26日面談資料より）	九電評価（令和5年5月26日面談資料より）
11 【C】 【A】	訓練結果の自己評価・分析	（継続的な向上） PDCAを回し、1つ上のレベルに到達し、これを繰り返すことで継続的な向上に繋がっている（スパイラルアップが出来ている）。	（現状の維持） PDCAを回しているものの、現在のレベルを維持している。 ・検証・評価ができていない ・計画で設定した目標と比較し、目標に近づいたのか評価していない ・改善点が見つからない ・改善案が適切ではない ・次のサイクルで目標、課題を設定せずに PDCAサイクルを回す 等	（A、B以外） PDCAが回っていない。 ・同様の問題が毎年繰り返し確認されている 等	A（継続的な向上）or B（現状の維持） ・初年度はAの効果まで測定できず、PDCまでの評価に留まる。（A評価は、翌年度に評価が出来るものと思慮） ・改善に取り組もうとしているが、具体的な対策ではない 例：対策すると、原因が取り除かれ、課題が解決するか？ （課題） ・基本的なLSB の運営（発電所への応援要員の受入や支援物資の輸送等）はできていたものの、全体的に運営規模が小さく、シナリオが実発災の想定に欠けていた。 （原因・要因） ・これまでのLSB 訓練でLSB 運営に係る対応の習熟が図れていたことや、LSB 運営手順書が整備されており、各要員が手順を理解し活動できていたものの、 <u>支援組織との連携に重点を置くために、運営規模としては小さなシナリオとしていた。</u> ↑これが根本原因なのか？ （対策） ・実発災を想定したシナリオでの訓練（LSB 受入人数や受入資機材の増加など）を計画的に実施することについて検討する。	評価：（A） 訓練結果の自己評価において、【C】適切に検証・評価がされ、【A】評価にしたがって改善すべき事項が抽出され、具体的な対策の方針を検討した。 一方で今回は本評価指標案を用いた初回評価であり、PDCAのサイクルは回っていないため、限定的な評価（A）となると考える。 <参照したエビデンス> 訓練後NRA面談（3/27）資料	評価：（A）（継続的な向上） <説明> ①訓練結果の自己評価において、【C】適切に検証・評価を行った。 ②【A】評価を行い、改善すべき事項を抽出した。 ③具体的な対策の方針を検討した。 一方で今回は本評価指標案を用いた初回評価であり、PDCAのサイクルは回っていないため、限定的な評価（A）となると考える。